

教育研究評議会（第1回）議事要旨

日 時 平成22年4月5日（月） 9時30分～11時10分
15時55分～16時00分
場 所 事務局中会議室，総合研究棟中会議室
出席者 別紙のとおり
議 事 審議に先立ち，次の役職員から就任挨拶が行われた。

学長	加治佐哲也
理事（副学長）	福本 謹一
副学長	福田 光完
理事（事務局長）	新谷 喜之
理事	井筒紳一郎
監事	宮崎 秀紀
監事	酒井 清

また，本年4月1日発令の教育研究評議会評議員及び事務系役職員の紹介が行われた。

次いで，前回（第11回）の教育研究評議会の議事要旨（案）の確認が行われ，原案のとおり了承された。

1 審議事項

- (1) 学長選考会議委員の選出について
配付資料4に基づき，教育研究評議会評議員のうちから学長選考会議委員として8人が選出された。なお，学系長以外の3人の委員については，該当する評議員の互選により選出された。
- (2) 兵庫教育大学総合教職キャリアセンター設置準備委員会及び設置準備室の設置について
福本副学長から，配付資料5-1,-2に基づき説明が行われ，質疑応答の後，原案のとおり了承された。
- (3) 教員の選考について
次の教員の選考が了承された。

特命教員
特命教員2名の選考が了承された。

非常勤講師
平成22年度 大学院担当：新規2件2名
学 部担当：新規4件3名

専任教員【学部教授会終了後審議】
同日開催の研究科教授会で意見の取りまとめが行われた教員の選考が了承された。
- (4) 教員の選考開始等について
専任教員
学長から，配付資料7に基づき，教員選考を開始すること及び教員選考委員会に教員

選考を付託することについて説明が行われ、了承された。

特命教員

学長から、配付資料7に基づき、教員選考を開始すること及び教員選考委員会に教員選考を付託することについて説明が行われ、了承された。

客員教授

学長から、配付資料7に基づき、教員選考を開始すること及び教員選考委員会に教員選考を付託することについて説明が行われ、了承された。

客員教員

学長から、配付資料7に基づき、教員選考を省略することについて説明が行われ、了承された。

非常勤講師

学長から、配付資料7に基づく授業科目の教員選考を開始すること及び教員選考委員会に教員選考を付託することについて説明が行われ、了承された。

平成22年度 大学院担当：新規1件1名

学部 担当：新規3件2名

なお、学部担当の選考については、授業開始までに教員選考を行う必要があるため既に関係コースにおいて教員選考が行われていること、本件の選考開始について了承が得られればこの場で教員選考を行いたいことの説明があり、当該教員選考が了承された。

- (5) 兵庫教育大学教員養成スタンダード推進機構設置要項の改正及び平成22年度推進機構組織について
福本副学長から、配付資料8-1,-2に基づき説明が行われ、原案のとおり了承された。

2 報告事項

- (1) 中期目標(第2期)の提示等について
福田副学長から、1月末に文部科学省に提出した中期目標原案(第2期)が3月29日付けで原案どおり提示されたこと、当該提示を受け、すでに教育研究評議会、経営協議会、役員会で審議・了承された中期計画(第2期)の認可申請並びに平成22年度年度計画の届出を行ったことについて報告が行われた。
- (2) 平成22年度予算実施計画について
福田副学長から、配付資料9に基づき説明が行われた。
- (3) 平成22年度学部及び大学院の入学者数について
福本副学長から、配付資料10-1,-2に基づき説明が行われた。
- (4) 学部学生の年間最低必要修得単位数未修得者の取扱いについて
福本副学長から、配付資料11に基づき説明が行われた。
- (5) 平成22年度免許状更新講習に関する今後の日程について
福本副学長から、配付資料12に基づき説明が行われた。
- (6) 学内各種委員会委員の選任状況について
総務課長から、配付資料13に基づき報告が行われた。

(7) 連合学校教育学研究科に係る諸報告について
原田研究科長から、配付資料14に基づき、3月9日(火)開催の研究科教授会の概要について報告が行われた。

(8) 平成22年度リサーチ・アシスタント経費及びティーチング・アシスタント経費の配分について
ホームページへの資料の掲載をもって、報告に代えることとされた。

(9) その他

宮崎監事から、以下の発言があった。

監事の役割はガバナンスの監視と言われているが、本学においては監事がどのような役割を果たすべきか、今後学長とも相談して適切な在り方を定めていきたい。また、免許状更新講習の実施に関し、大学院の学生確保の面からも、本学の教育研究の充実ぶりを示す絶好の機会と捉え、力を入れて取り組んでもらいたい。

酒井監事から、以下の発言があった。

第2期目標期間を迎えるが、大学の業務運営に対して閉塞感、負担感があることで、本来の教育研究に注力すべき力がそがれていることもあるのではと感じる。解決策を見出す一つの考えとして、リスクマネジメントをしっかりとした中で、取り組むべき事項を峻別し、メリハリや優先順位を付けるということも必要ではないか。

- 以上 -